

管内関係機関 担当者 様

感染症発生動向について

このことについて令和7年第35週(8月25日～8月31日)の動向をお知らせします。

定点あたり患者数(1医療機関当たりの平均報告数)

| 感染症の種類 | 県北保健所管内 (平戸市、松浦市、佐々町) | | | 長崎県 | 全国 |
|----------------|-----------------------|-------|-------|-------|------|
| | 33週 | 34週 | 35週 | 35週 | 35週 |
| インフルエンザ | 0 | 0 | 0.33 | 0.43 | 0.35 |
| 新型コロナウイルス感染症 | 8.67 | 27.00 | 23.33 | 13.92 | 8.37 |
| RSウイルス感染症 | 0 | 1.50 | 8.50 | 2.10 | 1.28 |
| 咽頭結膜熱 | 0.50 | 1.50 | ●4.00 | 0.45 | 0.25 |
| A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | 1.50 | 2.50 | 4.00 | 2.74 | 1.58 |
| 感染性胃腸炎 | 4.00 | 3.50 | 2.50 | 2.58 | 4.33 |
| 水痘 | 0 | 0.50 | 0 | 0.19 | 0.19 |
| 手足口病 | 0 | 0 | 1.00 | 0.29 | 0.51 |
| 伝染性紅斑 | 1.00 | 0 | 1.00 | ●4.74 | 2.03 |
| 突発性発疹 | 0 | 1.00 | 1.00 | 0.45 | 0.33 |
| ヘルパンギーナ | 0 | 0 | 0.50 | 0.35 | 1.19 |
| 流行性耳下腺炎 | 0 | 0 | 0 | 0.03 | 0.05 |
| 急性出血性結膜炎 | | | | 0.13 | 0.01 |
| 流行性角結膜炎 | | | | 2.13 | 1.08 |
| 細菌性髄膜炎 | 0 | 0 | 0 | 0.08 | 0.01 |
| 無菌性髄膜炎 | 0 | 0 | 0 | 0.08 | 0.07 |
| マイコプラズマ肺炎 | 0 | 0 | 1.00 | 1.17 | 1.05 |
| クラミジア肺炎 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.00 |
| 感染性胃腸炎(ロタウイルス) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.01 |

| | | | | | |
|---------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 急性呼吸器感染症(ARI) | 27.67 | 58.67 | 67.33 | 62.94 | 49.75 |
|---------------|-------|-------|-------|-------|-------|

●:警報レベル ▲:注意報レベル

【トピックス】 新型コロナウイルス感染症に注意しましょう。

新型コロナウイルス感染症の長崎県における第35週の定点あたり報告数は「13.92」でした。地区別では、対馬地区(28.67)、県北地区(23.33)が多くなっています。年代別にみると、10歳未満(19.7%)、10代(14.6%)、70代(14.4%)が多くなっています。

今後も場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

【トピックス】 伝染性紅斑が流行しています。

長崎県の第35週の報告数は147人で定点あたり報告数は4.74となり、4週続けて警報レベルの報告数となりました。地区別では、10保健所中6保健所で警報レベルの報告数となっています。

本疾患は、ヒトパルボウイルスB19による感染症で、小児を中心にみられる流行性の発しん性の病気です。約10～20日の潜伏期間の後、微熱やかぜの症状などがみられ、その後、両頬に蝶の羽のような境界鮮明な赤い発しん(紅斑)、体や手・足に網目状やレース状の発しんが広がりますが、ほとんどは合併症を起こすことなく自然に回復します。一方で、これまで感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児の異常や流産のリスクとなる可能性がありますので、注意が必要です。感染経路は、飛沫感染や接触感染ですので、手洗いやマスクの適切な着用など感染予防に努めましょう。

【トピックス】 マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう。

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。

長崎県では、2025年第35週までに、9件のSFTS、16件の日本紅斑熱が報告されています。

マダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。